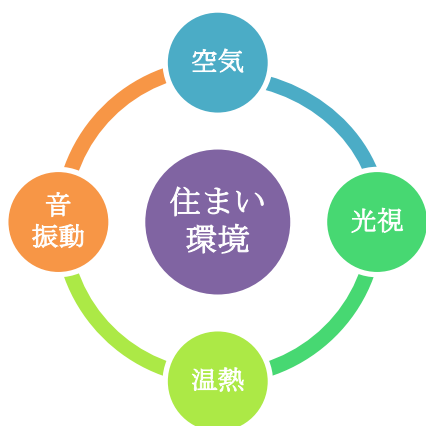


～健康住宅アドバイザーによる～

住まい環境の安心評価システム

～住まい環境状況を可視化する～



住まいの環境は**空気・温熱・光視・音振動**などで構成されています。この環境から人はストレスを感じたり、ダメージを受けることもあります。住まい環境による**ストレスやダメージは**血圧や心拍数に影響を与**るだけでなく、心筋梗塞や発癌性をも含むリスク**もあります。これらのリスクを避けるには、住まいの環境を知り、それに相応しい生活を営む事です。この程、NPO法人日本健康住宅協会がこの4つの環境をオリジナルな測定方法で、診断・評価出来るシステムを考案しました。



化学物質の空中濃度が人に与える影響は…？



あかりやひかりが人に与える影響は…？



寒さや暑さが人に与える影響は…？



騒音や生活音が人に与える影響は…？

システムのメリット

- メリット1 住環境を4つの視点より、オリジナルな測定・評価により可視化出来ます。
- メリット2 これまで表現が難しかった住環境の提案をレベル評価として説明出来ます。
- メリット3 経年変化でも生じるストレスやダメージを人への健康配慮という視点で提案します。
- メリット4 健康住宅アドバイザー資格保有の価値を具現化しています。(評価書へ記名押印)

システム利用の手順

★ 住まい環境の安心評価システムの利用や活用にあたり、様々な支援やツールも用意しております

検討

協会HPから住まいの安心評価システムを参照し申込画面へ移動する

申込

所定事項を入力すると評価システムがダウンロードされます(ID&PW)

測定

手順書に従って案件を測定し、評価書へ結果を入力します

提案

マテリアルで住まい環境で受けるダメージやストレスを評価しています
※ここをクリック



NPO 法人 日本健康住宅協会

～私たちは健やか住まい方で健康長寿の実現を目指しています～

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-7-19 第7新大阪ビル601

TEL. 06-6390-8561 FAX. 06-6390-8564

E-mail kjk-honbu@kjknpo.com <http://www.kjknpo.com>

1 測定対象建物の平面図入手【記録】

邸名、住所、竣工年を確認し、評価書に記入。

※測定は健康住宅アドバイザー資格更新者です

2 測定機器の準備

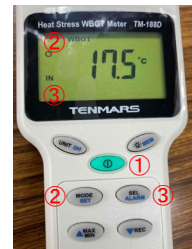
1)熱中症指数モニター TM188-D	2)騒音計	3)Matobuy 空気測定器 マルチテスター	4)表面温度計	5)照度計	【注意事項】 ・測定機器は測定者が準備 ・協会から無償レンタルも可能 レンタルの際の送料は測定者負担 レンタル期間は送付日除く3回以内 紛失、破損については実費負担
					

3 測定開始時刻と居住者様への対応

1日が一番気温が高くなる14時頃に測定を開始。
熱中症指数モニターで外気温を測定し、評価書に記入
測定中、居住者様は測定対象室以外の部屋で待機が望ましい。

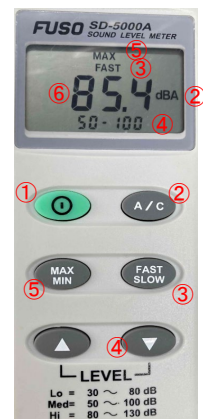
4 熱中症指数の測定

測定対象室のほぼセンターにスタンドを設置。(日射やエアコンの風が当たらない位置)
①電源ボタンを押す
②MODE/SETボタンでWBGTを表示させる
③SEL/ALARMボタンを押してINを表示させる
約5分から10分待機してから測定値を読み取る⇒MODE/SETを押して測定項目ごとに読み取り、熱中症指数が25℃を超えた場合は測定中止(測定者の健康配慮)



5 騒音レベルの測定

測定室(リビングか主寝室)を決め、評価書に記入し、騒音計を設置。
測定室の窓を開ける
①電源ボタンを押す
②A/CボタンでdBAを表示させる
③FAST SLOWボタンでFASTを表示させる
④LEVELボタンで50-100を表示させる
⑤静かにMAX MINボタンを押しMAXを表示させる(この時点で測定がスタートする)
⑥2分間測定し、最大値を評価書の窓開けの欄に記入。
窓を閉めて、再度①から測定し、最大値を評価書の1回目の欄に記入。
5分後、再度①から測定し、最大値を評価書の2回目の欄に記入。
測定中に、突発的な騒音(緊急車両、雷鳴など)があった場合は、測定をやり直す。



6 ホルムアルデヒド濃度の測定

測定室(リビングか主寝室)を決め、評価書に記入し、空気測定器を設置。
Powerボタンを押して測定画面が出たら、HCHOの測定値がカウントダウンが始まる
カウントダウンが終了したらHCHOの測定値を読み取り評価書へ記入。
(測定値が異常と思われる場合は下記手順で校正する)
Powerボタンを押して測定画面が出たら、もう一度押し選択ボタンからCalibraionを選択し HCHO Calibraion をスタートさせる(長押しして測定室へ)

7 温熱レベルの測定

測定室(リビングか主寝室)を決め、評価書に記入し、熱中症モニターを設置。
窓ガラスの種類を評価書に記入
エアコンを稼働し、既定の設定温度(夏季25℃、冬季20℃)に設定。
※外気温が概ね23℃以上で夏季、23℃未満で冬季の設定で測定する。
※中間期においては、エアコンの設定温度を外気温から±5℃以上になるように設定
～1時間後切にタイマー設定し、この間に"8.照度の測定"を実施～
1時間後の室内温度を熱中症モニターで確認し、評価書に記入。
南側(一番日光の影響を受ける面)の壁の表面温度を測定
表面温度計を目の高さで、壁から約5cm話した状態で測定し評価書に記入。

8 照度の測定

リビングのカーテンを開け、窓から見える空から天候・雲の量を判定し評価書に記入。
(天候の判断基準) 青空が見える場合は「晴」と判断する。
(雲の判断基準) 雲が半分以上あれば「多い」と判断する。
照明の調光機能の有無を確認し、評価書に記入。
照明をONにし、照度計を設置し、蓋を閉めたまま電源を入れ、表示が0となっていることを確認。
照度計のセンサーを遮らないように蓋を開け、表示された照度を評価書に記入。
場所を主寝室に移動し、同様の測定を行う

9 測定終了

測定結果を協会本部にメールで送付する。
測定基材を回収し、撤収する。

住まい環境の安心評価システムの申込はコチラ!

申込みフォーム

